

新種「メタセコイア」

われわれ、昭和10年代生まれは、
戦中・戦後の食べ物が少ない貴重な経験をし、
価値判断は、身近のもの全てに、「食えるか、否か？」
やがて、行き着くところ、人間観察でも、
「食えるか人間？食えない人間？」が、
常に判断基準となる。

横道にそれるが、情けないことに、
小学生唱歌の「うさぎ、おいし彼の山・・・」を、
「うさぎ 美味し・・・」と適当解釈していた。

さて、人気抜群の都知事、間もなく、「元知事」、
容貌と言動の所作を観察すると、
新種のメタセコイアを思わせる。

命名して「メチャセコイヤ」

新種名	メチャセコイヤ
英 語	Mechasequoiya
学 名	第三者委員会で検討中
和 名	公募中
写 真	省 略
分類：界	動物界
門	裸頭門
綱	哺乳綱
目	魚目

科	責任転科
属	多加利属
種	害来異種

形態・生態の特記：

頭は「テポドン」に似るも自然毛髪で、雨水直撃型。
公私同株で、開花は通年。
結実が多く、無数の不始末が地表に落ちる。

分 布：

原種の化石は、日本各地の地層に見られ、
日本周辺国に今も広く分布しているが、
情報統制で非公開ではあるが、すべて落葉樹である。

人間との関わり：

1948年生まれ、現職は都知事。
諸党漫遊歴ありで、
自眠党（別称 自民党）⇒
下位格クラブ（改革クラブ）⇒ 心頭改革（新党改革）⇒、
ムシヨ属（無所属）。
式議院議員（非礼区）、更生牢働大臣を経験

特徴と言語処理：

〔ご理解〕「ご容赦」「第三者の厳正な目」、
「しっかり」「プライバシー」と言語を多発し、
関係する脳的全エリアを動員しており、
しかも、他者から際立たせる特徴が幾つかある。
最もよく指摘されるのは言語能力の未発達。
他者との改善を目指すコミュニケーション、
および相手の質問への思考的対応能力不足が顕著である。
学齢・履歴から、知性を持つという指摘はあるものの、
言語の役割の、person-to-person 会話が成り立たない。
また、全ての組織は相互の信頼関係、

命令・指示関係によって成り立つが、理解できていない。

人間には、「人間らしさ」を求められるが、
自我が発達しすぎて、逆転現象が生じ、「我自」となり、
姓名あれど、「名を重んじ、名誉を重んじる」には至らない。

遊びの世界：

公職での使命意識が「遊び一本化」となり、
このメチャセコイヤの言動を分析すれば、
全ての活動は、四六時中「遊びの世界」への陶酔で、
その原資は、都民と国民から提供。
いや、「オレオレ詐欺」で掠め取られたもの。
つまり、彼から、「遊び」を引きはがすと、何が残る？

問題点：

反省は口先ばかりで、期待できない。
この新種を育て、開花させた国のシステムに欠陥がある。

都民や国民は被害者面するが、
「食えるか？食えないか？」の、
基本的な判断ができていない。

厳正な第三者判断は、昭和10年代生まれに任せよ。

付記：The New York Times 6/15 版で、
Masuzoe, sekoi の英固有名詞の確立と、
英形容詞の確立